

2022年2月10日

各位

会社名 株式会社西武ホールディングス
代表者 取締役社長 後藤 高志
(コード番号：9024 東証一部)
問合せ先 広報部長 川上 清人
(TEL. 03-6709-3112)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2022年2月10日開催の取締役会において、2021年11月10日に公表した2022年3月期の通期連結業績予想を修正することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期通期連結業績予想数値について(2021年4月1日～2022年3月31日)

	営業収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	償却前営業 利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主 に帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回公表数値(A) (2021年11月10日発表)	407,000	△8,000	47,000	△16,000	△14,000	△46.64
今回修正予想(B)	401,000	△11,000	44,000	△18,000	9,000	29.96
増減額(B-A)	△6,000	△3,000	△3,000	△2,000	23,000	—
増減率(%)	△1.5%	—	△6.4%	—	—	—
(参考)前期実績 (2021年3月期)	337,061	△51,587	1,882	△58,785	△72,301	△241.32
(参考)前々期実績 (2020年3月期)	554,590	56,823	114,535	48,770	4,670	15.18

2. 修正の理由

最近の業績の動向等や2022年1月27日に公表した西武建設株式会社の株式譲渡に伴う影響を踏まえ修正するものです。

今回公表する通期連結業績予想は、足もとでは新型コロナウイルス感染再拡大やそれに伴うまん延防止等重点措置の適用といった状況下ではあるものの、年度末にかけて緩やかに回復に向かうことを前提としております。営業収益につきましては、第3四半期連結会計期間において外出需要の想定以上の回復があったものの、先行きにおいては足もとでの感染再拡大の影響などにより回復時期の遅れが見込まれることから、2021年11月10日公表数値を下回る見通しであります。

各種経費の削減、先送りなどコストコントロールを行い、通期の固定費は31,000百万円程度を削減する見通し(同公表数値における削減見込：30,000百万円)ではありますが、営業収益が同公表数値を下回る見通しであることから、営業損失は同公表数値から拡大する見通し、償却前営業利益は同公表数値を下回る見通し、また、経常損失は同公表数値から拡大する見通しであります。

親会社株主に帰属する当期純利益は、2021年11月10日時点では当期純損失を計上する見通しを公表しておりましたが、西武建設株式会社の株式譲渡に伴う特別利益計上などにより、当期純利益を計上する見通しであります。

3. 各セグメントにおける営業収益及び営業利益、償却前営業利益の見通し

(単位：百万円)

セグメントの名称	営業収益				営業利益				償却前営業利益			
	当連結 会計年度 (今回予想)	11/10時点 公表数値比	前期比	前々期比	当連結 会計年度 (今回予想)	11/10時点 公表数値比	前期比	前々期比	当連結 会計年度 (今回予想)	11/10時点 公表数値比	前期比	前々期比
都市交通・沿線事業	133,500	△100	+10,902	△35,063	△4,900	+700	+4,917	△27,729	17,700	+500	+5,307	△26,908
ホテル・レジャー事業	138,200	△6,600	+54,149	△89,252	△25,500	△6,200	+27,913	△34,033	△8,400	△6,100	+29,745	△37,087
不動産事業	59,000	+1,200	+3,604	△1,464	18,800	+1,100	+3,377	+1,352	30,700	+1,100	+3,257	+1,507
建設事業	78,600	△2,600	△17,534	△33,171	4,000	-	△58	△1,637	4,300	-	△252	△1,788
その他	32,500	+400	+5,739	△11,716	△3,700	+900	+3,862	△5,574	400	+800	+3,899	△5,242
合計	441,800	△7,700	+56,860	△170,668	△11,300	△3,500	+40,011	△67,621	44,700	△3,700	+41,956	△69,519
調整額	△40,800	+1,700	+7,078	+17,078	300	+500	+575	△201	△700	+700	+160	△1,015
連結数値	401,000	△6,000	+63,938	△153,590	△11,000	△3,000	+40,587	△67,823	44,000	△3,000	+42,117	△70,535

(注) 1 調整額については、主に連結会社間取引消去等であります。

2 償却前営業利益は、営業利益に減価償却費およびのれん償却額を加えて算定しております。

都市交通・沿線事業につきましては、先行きにおいては足もとでの感染再拡大の影響などにより回復時期の遅れが見込まれるものの、第3四半期連結会計期間における外出需要の想定以上の回復が寄与し、営業収益は概ね同公表数値通りの見通しであります。各種経費の削減、先送りなどのコストコントロールなどにより、営業損失は同公表数値から縮小、償却前営業利益は同公表数値を上回る見通しであります。

ホテル・レジャー事業につきましては、第3四半期連結会計期間においては2021年11月10日公表数値の想定通りに推移したものの、先行きにおいては足もとでの感染再拡大の影響などにより、回復を見込んでいた同公表数値の想定よりもその時期の遅れが見込まれることから、営業収益は同公表数値を下回る見通し、営業損失、償却前営業損失ともに同公表数値から拡大する見通しであります。

不動産事業につきましては、第3四半期連結会計期間における商業施設の回復や分譲地販売が同公表数値の想定以上であったことなどにより、同公表数値を上回る見通しであります。

建設事業につきましては、土木工事の進捗の後ろ倒しなどにより、営業収益は同公表数値を下回る見通しですが、利益率の改善やコストコントロールなどにより、営業利益、償却前営業利益ともに同公表数値通りの見通しであります。

その他では、第3四半期連結会計期間において、特にスポーツ事業におけるコンサート開催にかかる施設利用収入などが同公表数値の想定以上であったことなどにより、営業収益は同公表数値を上回る見通し、各種経費の削減、先送りなどのコストコントロールなどにより、営業損失は同公表数値から縮小、償却前営業利益を計上する見通しであります。

(注) 上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上